

令和2年度

新潟県病害虫発生予察速報第1号

(ナシ赤星病の薬剤散布時期について)

1 ナシ赤星病の越冬伝染源量と薬剤散布時期

(1) 越冬伝染源量

中間宿主ビャクシン類における冬孢子堆の1枝当たり病斑数は0.91個で、越冬伝染源量は平年並(表1)。

表1 ナシ赤星病の中間宿主の冬孢子堆密度(1枝あたり病斑数)

調査地点	本年	前年	平年	発生概評
新潟市江南区早通	0.33	0.00	0.59	並
新潟市秋葉区子成場	1.06	0.47	1.00	並
新潟市南区戸頭	1.33	0.73	1.46	並
平均	0.91	0.40	1.02	並

令和2年3月30日、各地点30小枝調査

(2) ビャクシン類およびなしの薬剤散布時期

積算温度から推定した冬孢子堆の成熟状況に基づく薬剤散布時期は、ビャクシン類で4月8日頃、なしでは4月18日頃で、平年に比べ早い(表2)。

表2 ナシ赤星病の薬剤散布時期の予測

気象観測地点	積算温度		ビャクシン類散布時期		なし散布時期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
聖籠	353.6	230.8	4月8日	4月18日	4月18日	4月27日
新津	330.9	208.8	4月10日	4月20日	4月20日	4月28日
巻	340.6	231.0	4月9日	4月18日	4月19日	4月27日
三条	363.2	236.3	4月7日	4月18日	4月18日	4月26日
平均	347.1	226.7	4月8日	4月18日	4月18日	4月27日

注1) 積算温度は、2月1日～3月31日の日平均気温の積算値(日平均気温が0℃以下は加算しない)

注2) 平年は、平成22～31年の平均

注3) 散布時期の予測は、2(3)に示す予測式から算出

2 今後の対応と注意点

- (1) 今後の気象経過により薬剤散布時期が変動することがあるので留意する。
- (2) ビャクシン類は冬孢子堆が成熟して膨潤する直前に薬剤散布する。降雨が予想される場合は、降雨直前の薬剤散布が効果的である。
- (3) 薬剤散布時期は各地域の気象観測値を利用して、次式で予測できる。

予測式 ビャクシン類 $Y = 36.572 - 0.082X$

なし $Y = 41.91 - 0.0685X$

Y: 4月1日以降の日数

X: 2月1日～3月31日の積算温度(日平均気温が0℃以下は加算しない)